

「大砲かバターか」 —大砲よりも目の前のいのちを守りたい

「大砲かバターか？」という言葉があります。

軍事費の増強を選ぶか、福祉を選択するのかということを表した言葉です。

いま日本に暮らすすべての人に突きつけられている課題です。

ウクライナの戦争など世界で紛争が勃発しているなかわが国な政府は防衛の名目で軍事費を倍加する事を決めました。

安全保障とは人の生命と財産を守る事です。

しかし、戦争が起きる前に（起こしてはいけませんが）国民の生命と財産はいますでに危機的な状態にあります。

生活保護は意図的に基準が引き下げられ、生活困窮状態から脱することが出来ない人がたくさんいます。生活保護から排除され、いのちの危険にさらされている人がたくさんいます。

高齢者は介護保険の負担増が続いています。そして介護保険の利用には様々な制限がつけられ生活支援するサービスを利用したくとも利用出来ない人がたくさん増えています。

高齢者の医療は自己負担の原則倍加や入院制限などで必要な医療が受けられない人がいます。

戦争による生命財産の危機よりもいま眼前には福祉制度の後退、医療制度の後退によって生命と財産の危機はあります。

わたしたちはいまこそ歴史の示した教訓を振り返る必要があるのではありませんか？

かつてドイツのナチスは「T4作戦」で多くの障がい者や病人をユダヤ人同様に虐殺しました。わが国も戦力にならない障がい者を「非国民」となじり、人権を奪った歴史があります。軍事力の増強に傾倒すれば膨大な費用を必要とします。それも購入時だけではなく。保守にも永久的にお金をつぎ込む必要があるのです。

膨らみ続ける防衛費を満たすために削減されるのは福祉関連予算です。

その流れをくい止めなければ明るい老後は訪れないのではありませんか？

きょうと福祉倶楽部は福祉と介護の現場で働く人と支援を必要とされるかたの人権を守る職場でありたいと設立した事業所だけにいまの政治の流れには同意出来ません。

わたしたちは大砲よりもバターを選びたい。

床擦れ予防の重要な指針を測る体圧計をしていますか？

療養生活を行ううえで床擦れを作る事はケアの質が悪いと言われる問題です。

床擦れを作れば感染を引き起こすこともあります。免疫機能の破壊なども起こりえます。

またそれは患者さんにも大きな苦痛を与えるものです。

ですので床擦れを作らない介護を心がけなければなりません。

では床擦れが形成される要因は何でしょうか？

大きくその要因を示すと

圧迫

摩擦と擦れ

湿潤

栄養状態 等があげられます。

作ってしまった床擦れを治癒させるにはこれらのリスクを減らしていく必要があります。

これらのどれが欠けてもうまくはいかないのです。

先に挙げたリスクをきちんと把握し、分析することが床擦れを根絶する第一歩です。

摩擦も擦れも、皮膚の群れも、栄養状態も把握するのはさほど難しくはありません。しかし、皮膚のどの部分に大きな圧迫があるのかを見つけることはなかなか難しいものです。

それを把握するために作られた道具が体圧計です。

この機器を身体に敷き込み、計測すればどの部位が大きな圧迫を受けているのか一目瞭然になるのです。 良いケアを実現するには身体の状態を客観的に知る必要があります。

まだまだ体圧計は普及していません。こういう機器がケアの現場にきちんと用意されれば良いですね。

※福祉倶楽部に1台準備しています。貸し出し可能です。

